

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

## 第10回 アップ・ジョーンズ

### アップ・ジョーンズという人

アップ・ジョーンズ(D. W. Ap. Jones)は、1830年、アメリカで生まれ、明治初期に来日したといわれている。

明治6(1873)年9月、自費で関東地方を回り、牧羊業に適当な土や気候を調査し、大隈重信内務卿に綿羊事業についての意見書などを提出した。当時、外国人の営利事業は認められていなかったが、勸業寮権頭ごんのかみの河瀬秀治から「政府の雇い人とし、政府の事業とすれば支障がない」との答申があった。こうして、ジョーンズは同8年に勸業寮の御雇外国人として採用された。内務省勸業寮には牧羊開業取調掛という係が新設され、長官に岩山敬義たかよし、技術面での最高責任者にジョーンズが任命された。

牧羊場開設の準備はジョーンズを中心として進められ、用地選定のため、千葉・茨城・栃木県下の原野が実地調査された。

### 下総牧羊場が開場

明治8年11月、全ての用地の買収を待たず、下総牧羊場が開場し、初代場長に岩山敬義が就任した。ジョーンズは、係員と共に東京から七栄村(現在の富里市七栄)に移り、初めは民家を借りて居住していたが、後に官舎へ移った。



上/貴賓館  
下/三里塚御料牧場記念館  
(場所: 三里塚記念公園内)



1830年～?

アメリカ出身の牧羊家。明治維新政府に殖産興業政策のために雇用された御雇外国人。千葉県の一角に創設された下総牧羊場において、綿羊飼育の最高責任者に就任し、積極的な経営と牧羊の知識によって、日本の近代綿羊事業の基礎をつくった。

開場後、ジョーンズは、綿羊・馬などを輸入するため清(現在の中国)などに赴いた。その結果、明治9年11月には清から、翌年にはアメリカ・清・オーストラリアから綿羊を輸入することに成功した。

また、牧羊場は明治9年以降、各府県から1人ずつ生徒を募り、牧羊方法、牛馬豚管理方法、西欧農具用法などの講義と実習を行い、多くの卒業生を全国各地へ送った。

多くの綿羊が輸入され、本格的な繁殖育成事業が始まった。しかし、予想されなかった伝染性の病気が発生し甚大な打撃を被り、当初の計画と大きな食い違いが生じた。

明治11年8月29日、ジョーンズは、十倉村(現在の富里市十倉)の官舎で就寝中に、刃物を持った強盗に襲われ、重傷を負った。事件後、内務省やアメリカ公使館の関係者、成田山新勝寺貫首原口照輪が見舞いに駆け付けたという。傷の治療には、同12年1月までかかった。

牧羊場開設から5年が経過し、家畜管理の方法や農機具の使用方法が分かってきたこと、また、ジョーンズの不慮の災難による健康の点を考えて、明治12年4月をもって、勸農局牧羊場の都合により解職となった。退職後の消息については不明である。

下総牧羊場は後に、御料牧場となった。その跡地の一部は現在、三里塚記念公園になっている。公園内には、ジョーンズが住んでいた官舎を明治21年に移築し、各国大公使を招待する施設として改装した貴賓館や三里塚御料牧場記念館がある。

参考資料: 『下総御料牧場史』『成田市史』近現代編

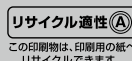
### 編集後記

成田空港に行ってきました。といっても、旅行ではありません。出発ロビーのにぎわいの中でお茶を飲んでのんびりすると、気分転換になるのです。その後はさくらの山へ移動し、満開のサクラと飛行機の撮影。滑走路の方向は午前中、逆光になるため、昼ごろから撮影を始めるのがお勧めです。併設のカフェで機内食風のランチプレートも堪能しました。成田空港は来月、40周年。時には、こんな休日の過ごし方がいいかですか。

平成30年4月15日号 No.1361

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。